

## 第5問

次の【文章】は、王昭君おうしょうくんという女性についてのエピソードである。また、【漢詩Ⅰ】と【漢詩Ⅱ】は、王昭君を題にとった漢詩である。これらを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

(配点 45)

### 【文章】

王昭君者、齐国王穰女也。年十七、儀形絶麗、以節聞。國中長者求之者、王皆不許、乃献漢元帝。帝造次不能别房帷、昭君恚怒久。会单于遣使、帝令宫人装出、使者请一女。帝乃谓宫中曰、「欲至单于者起。」昭君喟然越席而起。帝视之、大驚悔。是時、使者並見、不得止、乃赐单于单于大悦、献诸珍物。昭君有子曰世违、单于死、世违继立。凡为胡者、父死

妻<sup>めとル</sup>母<sup>ヲ</sup>。昭君<sup>ヒテ</sup>問<sup>ニ</sup>世<sup>違<sup>ニ</sup></sup>。一<sup>ハク</sup>日<sup>ハ</sup>「汝<sup>ハ</sup>為<sup>ル</sup>漢<sup>也、</sup>為<sup>ル</sup>胡<sup>也。</sup>」世<sup>違</sup>日<sup>ハク</sup>「欲<sup>スル</sup>為<sup>ラント</sup>胡

耳<sup>ト</sup>」昭君<sup>チ</sup>乃<sup>ミ</sup>吞<sup>ミ</sup>藥<sup>ヲ</sup>自<sup>ス</sup>殺<sup>ス</sup>。

（『世説新語』による）

（注） 1 者——置き字。

2 献——献上する。

3 造次——すぐに。

4 別房帷——<sup>めかけ</sup>妾にする。<sup>ちようあい</sup>寵愛する。

5 恚怒——恨み怒ること。

6 单于——<sup>きやうど</sup>匈奴の君主。

7 喟然——ため息をついて。

8 胡——匈奴。

【漢詩I】

王昭君

嵯峨<sup>さがが</sup>天皇

弱<sup>（注9）</sup>歲<sup>シ</sup>辞<sup>ニ</sup>漢<sup>かん</sup>闕<sup>けつ</sup>一<sup>ヲ</sup>

含<sup>ン</sup>愁<sup>デ</sup>入<sup>ル</sup>二<sup>ニ</sup>胡<sup>こ</sup>関<sup>くわん</sup>一<sup>ニ</sup>

天涯<sup>（注11）</sup>千万里

一<sup>タビ</sup>去<sup>ツテ</sup>更<sup>（イ）</sup>無<sup>シ</sup>還<sup>ル</sup>一<sup>コト</sup>

沙<sup>（注11）</sup>漠<sup>やぶり</sup>壞<sup>ニ</sup>蟬<sup>せん</sup>鬢<sup>びん</sup>一<sup>ヲ</sup>

風<sup>（注11）</sup>霜<sup>そこなフ</sup>残<sup>ニ</sup>玉<sup>ヲ</sup>顔<sup>一</sup>

唯<sup>ダ</sup>余<sup>のこス</sup>長<sup>ノ</sup>安<sup>ノ</sup>月

照<sup>ラシ</sup>送<sup>ル</sup>幾<sup>ノ</sup>重<sup>ノ</sup>山

（『文華秀麗集』による）

（注） 9 漢闕——漢の宮殿。

10 胡関——胡への関所。

11 蟬鬢——<sup>せみ</sup>蟬の羽のように透ける髪。

【漢詩Ⅱ】

奉<sup>ル</sup>和<sup>シ</sup>王昭君<sup>ニ</sup>

良岑安世<sup>よしみねのやすよ</sup>

虜<sup>(注12)</sup>地何<sup>ソ</sup>遼<sup>(注13)</sup>遠<sup>えんナル</sup>

関<sup>(注14)</sup>山不<sup>(ウ)</sup>忍<sup>ビ</sup>行<sup>クニ</sup>

魂<sup>(注15)</sup>情還<sup>ルモ</sup>漢<sup>かん</sup>闕<sup>けつニ</sup>

形<sup>(注16)</sup>影向<sup>カフ</sup>胡<sup>ニ</sup>場<sup>ニ</sup>

怨<sup>うらみハ</sup>逐<sup>おビテ</sup>辺<sup>ニ</sup>風<sup>ヲ</sup>起<sup>コリ</sup>

愁<sup>ハ</sup>因<sup>リテ</sup>塞<sup>(注17)</sup>路<sup>ニ</sup>長<sup>シ</sup>

願<sup>ハクハ</sup>為<sup>リ</sup>孤<sup>ニ</sup>飛<sup>ノ</sup>雁<sup>がんと</sup>

歳<sup>ニ</sup>歳<sup>ニ</sup>一<sup>タビ</sup>南<sup>ニ</sup>翔<sup>かけラン</sup>

(注) 12 虜地——边境の異民族の土地。匈奴を指す。

13 遼遠——はるかに遠い。

14 関山——関所と山々。

15 魂情——心。

16 形影——身体。

17 塞路——边境の道。

(『文華秀麗集』による)

問 1 波線部(ア)～(ウ)のここでの意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答

番号は 30 32。

(ア)

30 「凡」

- ④ ③ ② ①  
おそろく 格別に おおかた それぞれ

(イ)

31 「更」

- ④ ③ ② ①  
決して そのうえ 常に たまに

(ウ)

32 「不<sub>レ</sub>忍」

- ④ ③ ② ①  
耐えられない 身を隠せない 止められない 間違えられない

問2 傍線部A「帝令<sub>二</sub>宮人装出<sub>一</sub>、使者請<sub>二</sub>一女<sub>一</sub>」の解釈として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解

答番号は 33。

- ① 帝が宮女らに手伝わせて自らの服装を整えさせ、使者に女性を一人求めさせた
- ② 帝が自ら宮女らが着ている衣装を褒める言葉を述べ、使者に宮女らを与えた
- ③ 帝が宮女らを後ろに従えて使者の前に出て行き、使者は一人の女性を指名した
- ④ 帝が宮女らに美しく装わせて使者の前へ出させ、使者はそのうちの一人を求めた

問3 傍線部B「欲至<sub>二</sub>单于<sub>一</sub>者起」について、返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- |                                      |                |
|--------------------------------------|----------------|
| ① 欲至 <sub>二</sub> 单于 <sub>一</sub> 者起 | 欲は单于に至り起つ      |
| ② 欲至 <sub>二</sub> 单于 <sub>一</sub> 者起 | 欲するに单于是起つ者に至る  |
| ③ 欲至 <sub>二</sub> 单于 <sub>一</sub> 者起 | 单于に至らんと欲する者は起て |
| ④ 欲至 <sub>二</sub> 单于 <sub>一</sub> 者起 | 单于是起ち至ることを欲す   |

問4 二重傍線部「乃」と同じ意味で用いられている「すなわち」として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

解答番号は

35

- ① 朝方の月を見、すなわち詩を吟ず。
- ② 実現すればすなわち大変な成果だ。
- ③ 彼女は母の姉、すなわち伯母です。
- ④ 自身の弱みはすなわち強みである。

問5

【漢詩Ⅰ】と【漢詩Ⅱ】について、次のA群のa・bの説明として最も適当なものを、後のB群の①～⑥のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

36

37

A群

a 【漢詩Ⅰ】と【漢詩Ⅱ】の共通点

36

b 【漢詩Ⅰ】と【漢詩Ⅱ】の相違点

37

B群

① 【漢詩Ⅰ】も【漢詩Ⅱ】も、王昭君が漢の宮殿を去ることになった理由を述べている。

② 【漢詩Ⅰ】も【漢詩Ⅱ】も、王昭君と漢の宮殿を隔てた距離を強調している。

③ 【漢詩Ⅰ】も【漢詩Ⅱ】も、王昭君に漢の宮殿に対する未練などなかったとしている。

④ 【漢詩Ⅰ】では近いとしている匈奴について、【漢詩Ⅱ】では果てしなく遠い地として描いている。

⑤ 【漢詩Ⅰ】は王昭君を醜い女性として描き、【漢詩Ⅱ】は美貌の女性として描いている。

⑥ 【漢詩Ⅰ】は王昭君を客観的に捉えており、【漢詩Ⅱ】は語り手が王昭君の立場でその心情を歌っている。

問6

【漢詩Ⅰ】からうかがえる王昭君の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

38

- ① 第一句「弱歳」は、【文章】の「以<sub>レ</sub>節聞<sub>二</sub>國中<sub>一</sub>」と同様に王昭君が節操の固い女性であることを表している。
- ② 第二句「入<sub>二</sub>胡関<sub>一</sub>」は、【文章】で王昭君が元帝に单于の妻になれと命じられた結果生じたことである。
- ③ 第五句「蟬鬢」と第六句「玉顔」は、【文章】の「儀形絶麗」と同様に王昭君が美貌であることを表している。
- ④ 第七句「長安月」は、【文章】で王昭君が元帝を愛していたとあることから、元帝を象徴するものである。